

フットケアで 足の潰瘍予防

東海・北陸学術集会

日本フットケア・足病医学会の東海・北陸地方学術集会が岐阜市橋本町のじゅつろくプラザで開かれ、



フットケアの実践などの報告があった学術集会＝岐阜市橋本町、じゅつろくプラザ

各地の医師や理学療法士らが症状の事例やケアの実践を発表した。

糖尿病の患者らに起こりやすい足の潰瘍などの「足病」を予防するフットケアを研究し、技術の向上を目指す学会。オンラインを含め約300人が参加した。

冒頭で集会の会長を務めた、松波総合病院(羽島郡笠松町)心臓血管外科センター長の熊田佳孝医師が講演。足に潰瘍ができたり壊死したりした患者を多く診るうちに「傷ができる前に介入しなければ」と思い、フットケアの概念を取り入れた」と前身の学会を立ち上げた経緯などを紹介した。

(大賀由貴子)